

＜今日の説教のポイント 使徒言行録 16 章 25～34 節＞

1 私の実家を思うとき、この出来事は身近に思える。

説教題にした印象的な言葉が出て来る個所ですが、私の実家に起こったことを思う時、この言葉は自分に当てはまるように思えるのです。またそれは神様が全ての人に用意して下さっているものでもあるのです。

2 囚人たちはなぜ逃げなかったのか？ 信仰への誘いは全ての人に。

大地震によって牢の戸が開いたのに囚人たちはなぜ逃げ出さなかったのでしょうか？ その少し前に囚人たちは同じように牢に入れられたパウロたちの讚美と祈りに聞き入っていたとあります。どうなるか分からない状況の中で心静かに神様を讚美し祈る彼らの姿に驚いたのです。その後、パウロが引き留めたので囚人たちは一人も逃げ出さなかったのです。神に向かって祈っていたパウロが語る言葉に従ったのです。囚人の中にはきっとこの後、パウロの神様に向かって行った人たちもいるでしょう。信仰への誘いは誰にも色んな形で与えられているものなのです。

3 自害しかけた看守が見出したものは？ 絶望は新しい人生への入口。

看守は牢の戸が開いて囚人が皆逃げたと思い、責任を取って自害しようと思いました。こんなことが起きなければ、この先も公務員として幸せにやっていたはずの真面目な人です。そんな看守がパウロに助けられたのです。ここで大事な点は、この看守がパウロに助けられて前の状態に戻れたことを喜んだのではなく、このパウロが持っているもの、パウロの背後にあるものは何かを知らずにはおれなくなったことです。

4 「救われます」の意味は？ 礼拝で聖書の解き明かしを聞く意味。

看守は「救われるためにはどうすべきでしょうか」と尋ねました。自害しないでよくなったのですから、救われたのではないのでしょうか？ 彼はもっと深い「救い」を考えるようになったのです。パウロは、「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます」と伝え、その後、彼とその家族に聖書の神様のこと、特にイエス様を通してなされたことを語り聞かせました。彼らはその話を熱心に聞いて、その内容に納得して洗礼を受けたのです。さて、「救われます」の「救い」とは何でしょうか。それはある艱難から難を逃れるようなことではなく、「色んなどんな艱難の中にあっても、もうこの神様を知っているから大丈夫」と思えるようになることです。神様はそのために主の教会の礼拝という、聖書の解き明かしを聞ける機会を設けて下さったのです。